金澤建設株式会社

～縁の下の力持ち～

多摩大学　経営情報学部

太田　隼人（2年）　趙　彦明（2年）

今回は、東京都小金井市で土木・建設業を営む金澤建設株式会社を訪問した。同社は創業から、77年（現在2022年）が経過している地域密着型の企業である。生活の利便性の維持向上、地域経済活動を活性化させるために、多角的な事業に取り組んでいる。

金澤建設株式会社　代表取締役社長　金澤　貴史氏

会社概要

金澤建設株式会社は1945年4月1日に創業者の故金澤亨氏によって小金井市で創業された。建設業を通じて『私たちに関わるすべての人が笑顔になれる企業であり続け、社会に貢献します』という理念のもと、日々色々な課題に直面しながらコツコツと確実に事業を展開している。

地元に根を下ろして土木工事を中心に事業を展開してきたが、2000年より建築工事の請負を開始し、総合建設会社となった。2015年には、同社は創業70周年を迎えた。また、異業種の事業承継で、2016年に多摩信用金庫主催の多摩ブルー・グリーン賞の多摩グリーン賞（経営部門）最優秀賞を受賞した。

70 年以上続く会社　100 年企業を目指す

金澤建設株式会社の沿革はこうだ。金澤亨氏が1代目社長となり「金澤組」を発足し、関東一円で、幅広く仕事をおこなっていた。1987年に金澤昭氏が2代目社長として就任した（現会長）。当時、日本は平成バブル景気に突入していた。大きな仕事も小さい仕事も多くあったが、その中でも地元の仕事をコツコツと行い市民のインフラ、生活を守っていた。

仲間を大事にすることは同社の心である。この魂は代替わりしても健在である。金澤昭氏は「会社を継続しようという強い意志を持つ者が、会社を引き継ぐことがベストである」と語っている。金澤建設株式会社は歩みを止める事なく、可能性がある限り前へ進んでいく。

金澤昭氏が次世代へ伝えたいことは次の二つである。一つ目は、問題意識を持って、失敗を恐れずに事に当たればよいということである。二つ目は、この仕事こそ、やりがいのある仕事だと、人に頼らず、自分の力でリーダーシップのとれる人間であってもらいたいということである。

同社の2代目金澤昭氏の後を継いでいるのが現在の社長、金澤貴史氏だ。悩みや課題に直面するという事は成長していること。真面目に楽しく社員一丸となって、建設業という枠にとらわれず、色々な可能性を取り入れる柔軟性を持って進んでいきたいと考えている。先代達が長きに渡りコツコツとお客様との信頼関係を築いてくれたため、初心と感謝を忘れずに常にお客様から必要とされる企業で在り続ける。

異業種の事業承継　菓子工房ビルドルセの設立

かつて東小金井で評判の「カスタードパフ」が人気のお店があった。27年間に亘って小金井市東町３丁目で愛され続けてきた洋菓子店が人手不足や2014年、年末のバター不足によって閉店することを知る。その事を知った金澤建設株式会社の社員たちが、「皆が喜んでいた地元の味を絶やしたくない」と異業種の事業承継をすることを決意したのである。土木建築と畑違いのお菓子作りだが、「奇跡のふわふわ食感」をどのように承継できるのか試行錯誤を繰り返し、

前店主が感覚で作成していた手順をビデオ・写真撮影してレシピとして確立し、更に30年物のオーブンを使いこなすために日々練習を重ねて100%同じ製品を作り出すことに集中した。

黄金井パフ

同時に店舗の整備、スタッフ募集・教育、商品名・店舗名決定、営業許可証の取得などを行い、2015年3月15日にオープンした。その後、2016年１月5日に東小金井駅前に移転した。地域で愛されたお菓子の歴史をこれからも造り続け（ビルド/Build・英語）、地元だけでなく全国のみなさまに美味しいお菓子（ドルセ/dulce・スペイン語）をお届けしたい、の想いを込めた手作り・こだわりの原材料をベースに安心、安全でおいしいお菓子作りのお店の「菓子工房ビルドルセ」である。

菓子工房ビルドルセの売り場

金澤建設株式会社は中小企業として街を愛して営業している。異業種の仕事でも知識ゼロから始めても、コツコツと全力で向き合えばこういうことが出来る。それができたのは、地域の人が応援してくれるからである。SNSの更なる活用や営業活動による販路拡大など、ビジネスとして確立するために邁進していく。

人とのつながりを大切に

『私たちに関わる全ての人が笑顔になれる企業で在り続け、社会に貢献します』という理念のもと地域に密着して活動している金澤建設株式会社。社員同士はもちろん会社と顧客、会社と地元の絆を深めているのが“感謝”の言葉である。社員さんも「社内でありがとうと言われることも嬉しいですが、私はお客様にありがとうと言ってもらえることがやりがいですね。建築には時間がかかるので建物が完成した時には、感激しますし、頑張ったことが形として残るということはとても嬉しいです」と語っている。他の社員からも“感謝“の言葉が社内外で聞こえてくるという。

この“感謝”の言葉と、徹底的に地元に尽くし地元に貢献し続けていることが、顧客との絆、信頼につながり、また、社内ではやりがいにつながっている。さらに、地域住民と行う餅つきや社内交流のゴルフコンペなど日々関わる人達とのイベントも多く開催しているそうだ。

将来の展望

3代目金澤貴史氏と集合写真

現在、創業77周年を迎え、100周年に向かって一歩一歩確実に歩んでいる同社は変革の途中にある。2015年からは新規事業として洋菓子店の経営も始め、そこで新たな雇用を創出している。地域に貢献しながら、他社にない独自色を強めていく方針である。また、時代が変わったとしても、最初と最後は人間によるもの、つまり、人とのコミュニケーションをとることが大切であると3代目社長金澤貴史氏は考えている。作業を行うのは人間ということを忘れずに、直感を大事に何事にも挑戦しながら、伝統を守っていきたい。そのうえで、様々なことに感謝の気持ちを忘れずに地元に還元していきたいという気持ちが強いと語る。

金澤貴史氏は「会社の規模を大きくしたいわけではないのです。ただ『小金井にはやっぱり金澤建設がなくちゃ困る』と言っていただける会社、関わるすべての人が笑顔になって地域のお役に立てる会社にしたい」と、地元への想いを語っていただいた。建設業界では人材確保も重要であり、そのためには従業員が働きやすい環境を作ることが重要だと考える。資格取得支援制度、ライフワークバランスがとりやすい社風づくりや、社内コミュニケーションをとりやすくするなどの取り組みにより、技能労働者の処遇の向上や、建設業界の持続的な発展に必要な人材の確保を行うことができるだろう。

取材の感想

　取材を通して、地域に密着してコツコツと信頼を築き、成長してきたということが、長年会社が続いている要因ということを知った。また、信頼を築くために、真正面から向き合い、素直に言葉にし、感謝を伝え、少しずつ信頼を得ていくというお話が特に印象に残っている。今後、ゼミでの活動や社会に出た時に、今回感じたことを活かしていきたい。（太田）

　今回、インタービューさせていただいた中で、同社が展開しているビジネスを改めて認識することができた。一番印象に残ったのは、菓子工房ビルドルセである。2015年から新規事業として菓子工房の経営を始めていることである。意外に他社にはないユニークな特徴だと感じた。2014年に、地元で27年続いた洋菓子の名店が閉店することを知り、地元の名物を引き継ぐことができるのではないかという気持ちがあった。また、地域における人に愛される店は後継者がいないため、金澤建設株式会社が継いだことがわかった。今では、店舗での雇用も増え、少しでも地域に貢献することが実現できたと感じる。（趙）

菓子工房ビルドルセのスタッフの方達と集合写真